

芦屋市指定文化財 芦屋川の文化的景観

芦屋川の歴史

3

芦屋川が育んだ歴史

芦屋川の名は古代や中世に、すでにみられます。この川が育んできた歴史は長く、そして豊かなものです。その歴史をみれば、先史・原始から変遷を遂げてきたことがわかります。

芦屋川の周辺では、地形の影響を受けて、その右岸(西岸)側と左岸(東岸)側において、ようすが大きく違います。具体的には、水害を受けずに比較的安定している右岸側には集落が営まれてきたのに対して、洪水の被害を多く受けてきた左岸側は集落があまり営まれませんでした。

このように、芦屋川の両岸において環境が大きく異なっていたことが、右岸域と左岸域それぞれの土地利用の歴史に大きな影響を与えてきたのです。

中世の芦屋川

中世に至ると両岸の堤防が幅広く形成されました。当時の芦屋川は、土砂の堆積のみならず、巨石も各所に転がった粗放な姿であったと考えられます。

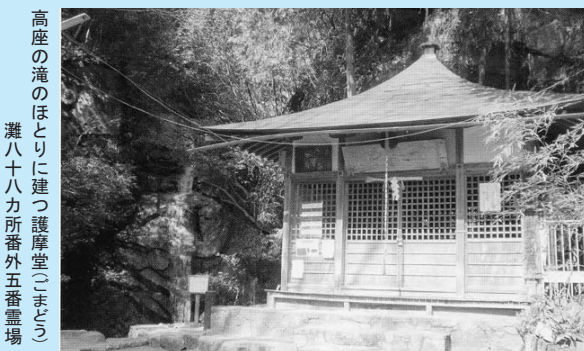
鎌倉時代には、市域に「葦屋庄」と呼ばれる荘園が存在したことが知られています。その後も、室町時代の史料に、「大光明寺領葦屋庄」や「北野社領葦屋庄」、「神祇伯家領葦屋」という記載がみられます。これらの荘園の位置や範囲については不明ですが、芦屋川流域に荘園が展開していたと考えられます。

また、六甲山地は、中世以来、瀬戸内海沿岸を中心として分布する花こう岩製の五輪塔や宝篋印塔などの石造物の供給地として知られています。いわゆる「御影石」として知られる桃色を帯びた六甲花こう岩は、六甲山地南麓の東部に分



ロックガーデンの名付け親 藤木九三のレリーフ

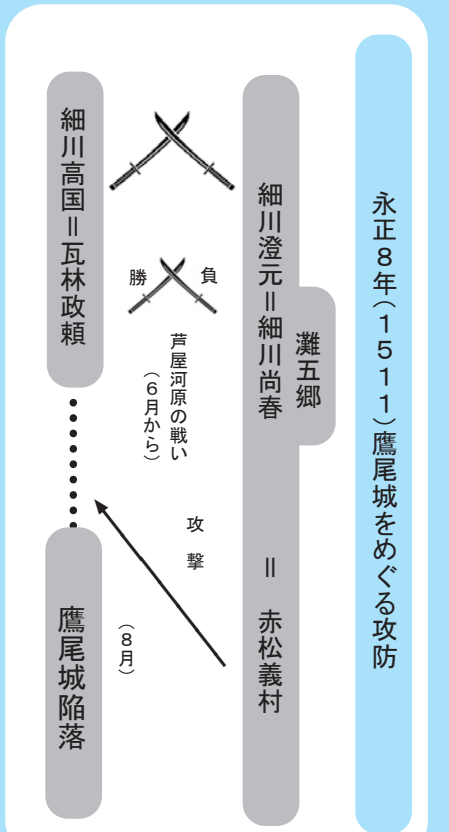
高座の滝



高座の滝のほとりに建つ護摩堂(こまどう) 瀬八十八ヶ所番外五番霊場

鷹尾城の歴史をひも解く

鷹尾城が築かれた当時、管領細川家に内紛が起きており、細川高国と細川澄元が対立していました。瓦林政頼は、高国方に組しており、永正8年(1511)5月に本庄(灘五郷)の地侍を中心とする村の共同体と対立して攻防戦を繰り返した。6月から7月にかけて灘勢と結んだ澄元方の細川尚春と、芦屋川の河原で激戦を繰り返した。高国からの援軍を得て勝利を収めました。しかし、8月になって澄元方の赤松義村らの攻撃を受け、政頼は鷹尾城から逃れて、城は陥落、炎上しました。芦屋の地は、その後、天正10年(1582)に天下統一を成し遂げた豊臣秀吉の直轄地となりました。



紀初頭の礎石建物跡や墓跡などがみつかっています。これらは鷹尾城に関連する遺構群と考えられ、城山南麓遺跡が居住の場であったと推測できます。鷹尾山のふもとを流れて芦屋川と合流する高座川については、鷹尾城の惣構えとしての外堀をなしたと推定できます。なお、この高座川は中世後半期に現在の流路に付け替えられたという説が提出されています。

さらに、芦屋川や住吉川の分水嶺付近(標高約875m)に位置する「石宝殿」や、芦屋川の上流右岸の「鑿切り岩」における雨請いの風習など、近代まで民間信仰の対象であったことも知られています。

※このページでは、生涯学習課が発行した「芦屋川の歴史」を広報国際交流課が再編集して紹介しています。

【主な参考文献】

- 『芦屋 今むかし』 芦屋市1990年
- 『市制施行50周年記念写真集』 芦屋市1990年
- 『芦屋子と風土記』第1、2巻 芦屋市1990年
- 『芦屋市文化振興財団1992、2000年』 芦屋市1992、2000年
- 『芦屋のつくりかた』 (市制施行50周年記念写真集) 芦屋市1990年
- 『芦屋の自然』自然観察ガイドブック 環境課2008年
- 『芦屋の生活文化史』 民俗と史跡をたずねて 芦屋市教育委員会1979年
- 『新修芦屋市史』続編 芦屋市1971年
- 『新修芦屋市史』続編 芦屋市2011年
- 『みんな語り 伝えよう！芦屋川物語』 六甲の川物語 国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所ホームページ

ケアハウス エルライフ芦屋

入居者募集中!!

60歳以上で、身の回りの事は自分で出来る方を募集しております!!

1室空き

入居金ゼロ。毎月のお一人様費用:約12万~18万(食事代込み)

2人部屋募集中

ご夫婦 ご兄弟・姉妹 親子等 入居可能!

まずはご一報をお待ちしております!!

〒659-0025 芦屋市浜町12番3号 TEL:0797-35-8341

ホームページ <http://care-net.biz/28/ellehome/>

都心に近くアクセス便利な「神戸空港」



●「広報あしや」バックナンバーは、市ホームページ『広報あしや ON LINE』でご覧いただけます。